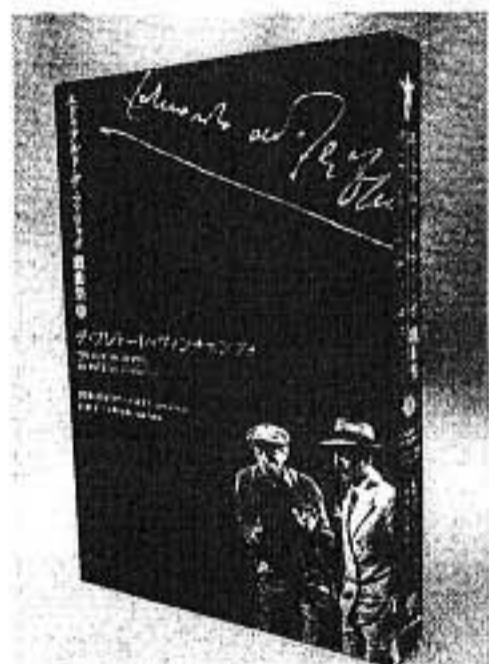


邦訳戯曲集の刊行開始

大衆的でありながら
社会問題も
人生の悲喜も

ある劇作家の戯曲集が、日本ではまだ刊行されていないと知り、イタリア会館・福岡の館長ドリアーノ・スリスさん(65)＝福岡市＝の心は躍った。「適切な訳で戯曲集を出そう。きっと日本でも彼の世界に親しんでもらえる」。イタリアでは誰もが知っているのに、日本ではあまり知られていない彼―劇作家で、俳優や



刊行が始まった『エドゥアルド・デ・フィリッポ戯曲集』

詩人でもあるエドゥアルド・デ・フィリッポ(1900〜84)の世界を伝えるために。邦訳戯曲集の刊行を10年前に着想したが、共訳者が見つからず、思いはしばみ

そうになった。時を経て、スリスさんは「当時の演劇には大きく2種類ある。社会的な、いわゆるインテリのた

めもの。もう一つは大衆の戯曲集(全5巻)の1巻目を刊行した。より立体的に作品世界を楽しめるよう、当時の劇場公演映像も収めたDVD付きの豪華本だ。

デ・フィリッポは20世紀イタリア演劇界の巨匠で、国内外で支持された。スリスさんは「当時の演劇には大きく2種類ある。社会的な、いわゆるインテリのた

めもの。もう一つは大衆の戯曲集(全5巻)の1巻目を刊行した。より立体的に作品世界を楽しめるよう、当時の劇場公演映像も収めたDVD付きの豪華本だ。

イタリア会館・福岡
ドリアーノ・スリス館長



エドゥアルド・デ・フィリッポの肖像画と共に。「1巻目を選んで作品は、ナポリの姿を鮮やかに描いている。エドゥアルドが手を握ってナポリの街を案内してくれるよう」と話す、イタリア会館・福岡のドリアーノ・スリス館長

文化

ファクス
092(711)6243

メール
bunka@nishinippon.co.jp